

留学体験記

中村 昭雄

はじめに

筆者は、2004年9月から2005年9月までの約1年間、本学の海外研究員の機会を与えられた。アメリカ合衆国のユタ大学（ユタ州ソルトレイクシティ (1)）とカナダのビクトリア大学（ブリティッシュコロンビア州ビクトリア）で、客員研究員としてそれぞれ6ヶ月間を過ごした。今回の海外研究の目的は、北米における政策過程の研究であったが、本稿では、主に研究以外の体験を中心に記す（研究成果は別途公表の予定である）。

1. ユタ大学の歴史

ユタ大学（The University of Utah）の前身は、1850年2月28日にブリガム・ヤング (2) によって設立された The University of Deseret まで遡る (3)。ユタ大学は創立150年を超える大学である。The University of Deseret は1852年に資金不足のために一時閉鎖されたが、ミズーリ州以西の最古の州立大学である。The University of Deseret は、1867年にジョン・パーク博士が引き継いで復活し、その後1892年に現在のユタ大学（The University of Utah）に校名を改めた。広大なユタ大学の西方に University St. に面して8個の古いビルディングを擁するU字型をした President Circle というところがある。これらの建物は20世紀の初頭から30年代までに建てられたもので、連邦政府と州から歴史的な場所・建造物として指定を受けている。その中央に1914年に建てられた JOHN ROCKEY PARK BUILDING があり、現在は学長室などがある。正面にはパークの銅像も建っている。パークは1869年から1892年まで初代の学長を務め、「ユタ大学の父」とも呼ばれている。

2. ユタ大学の概要

現在、ユタ大学は15の college (school, division) で構成され、その下に90を超える学部がある。例えば、私が所属していた政治学部は、College of Social and Behavioral Science の傘下であり、政治学部の他に、人類学部、経済学部、家計・消費者学部、地理学部、心理学部、社会学部の全7学部で構成されている。

ユタ大学の学生総数は、約28000人で（大東大の約2倍）、内訳は学部生が22000人、大学院生が6000人である。学生は全米50州からはもちろん、世界の108カ国から約2200人の留学生と研究者が学ぶ。男女比は、男子55%、女子45%である。因に、College of Social and Behavioral Science の学生が約4000人と一番多い。教員は、非常勤も含め2750人、職員は11500人である。

キャンパスの広さは、1500エーカー（約184万坪、東京ディズニーランドの約12倍、大東大の約16倍）で、298のビルがある。キャンパスが広いため、学内を午前6時から午後6時まで、4～5系統のキャンパスシャトルという無料のバスが運行されている。

50000人を収容する Rice-Eccles Stadium は、2002年のソルトレイクシティで開かれた冬季オリンピックの開会式と閉会式に使用された。ダウンタウンから車で20～30分走れば、広大なスキー場がいくつもある。

図書館は、蔵書数約270万冊（大東大の約2倍）を誇る J.W. マリオット図書館をはじめ、専門図書館として Health Sciences Library と Law Library がある。マリオット図書館は、月曜～金曜が7時、土曜が9時、日曜が10時に開館し、閉館は金曜、土曜が夜の8時、それ以外は、夜の12時である。

ユタ大学のキャンパスに隣接して、リサーチ・パークと呼ばれる一帯がある。約40万坪の土地

に37のビルがあり、37の企業と50以上の学部が集まり、6000人が働いている。ここは大学の研究者と学生にビジネスチャンスを与えるものとして、応用研究の宝庫と期待されている。いわゆる産学協同の実例である。州経済の雇用創出にも役立ち、毎年550万ドルの経済活動をしている。

3. 政治学部、大学院、研究所

政治学部はマリOTT図書館の正面にある Orson Spencer Hall に、学部事務室と教員の研究室がある。政治学部には約400人の学部生が、大学院には修士、博士課程併せて約50人が学んでいる。国際政治や比較政治を研究する日本人の大学院生も二人いた。教員は、女性教員8名を含み全部で24人いる。この中には、毎年、大東文化大学大学院法学研究科の集中講義をお願いしている Ronald J. Hrebanar 教授、かつて集中講義をお願いした Robert Benedict 助教授がいる。政治学部の教員は、アメリカ政治、比較政治、国際政治、政治理論、行政学の五つの分野に分かれて、研究と教育を進めている。

ユタ大学政治学部には、Hinckley Institute of Politics というユニークな研究所がある。これは、学生が政治の実態をよりよく理解するために、学生をワシントン DC、ユタ州議会、各種選挙キャンペーンなどに学生を送り、インターンシップの経験をさせたり、政治の現場に携わる実務経験者を講師として招き、ほぼ毎週フォーラムを開催している。学生は講義に参加したり、インターンシップに参加することによって、アメリカ政治の実態をより深く学ぶことができるのである。この研究所は、1965年に Robert H. Hinckley によって設立され、それ以来40年間に約3500名の学生がこのプログラムに参加している。2003年には、海外視察のプログラムで日本にも来て、国会などを視察している。学生には各種の奨学金が用意されて便宜が図られている。大東文化大学でも、将来大学院レベルにこのような現実の政治や行政が学べるプログラムが充実することを願いたい。

4. 学生生活

講義は午前7:30から始まり、最終講義は夜の9時に終わる。時間割は、講義が行われる場所(建物)、講義内容により、かなりフレキシブルに作られている。日本のように時間割が整然と作られていないようである。

ユタ大学の時間割(履修状況)の特色は、多くの学生が午前中の講義を中心に受けていることである。学生は、午後は多くの場合、学費や生活費を稼ぐために、パートタイム従業員として働いているようである。いわゆるアルバイトである。背景には、モルモン教の影響で、学生結婚も多いと聞いている。

授業風景は、かなり自由である。講義中の飲食もかなり見受けられる。携帯電話も授業中どこかで鳴っている。外に出て話している学生もいるが、教室で話している学生もいる。教員が注意している場面は、あまり見ていない。私だったら、我慢できないところである。しかし、講義中の質問は活発である。先生は学生に語りかけたり、問いかけたりしている。学生もそれに対して受け答えているし、自分の経験談をふまえて、自分の意見を主張する。この授業風景は、日本とは相当かけ離れている。うらやましい限りである。

5. ビクトリア大学

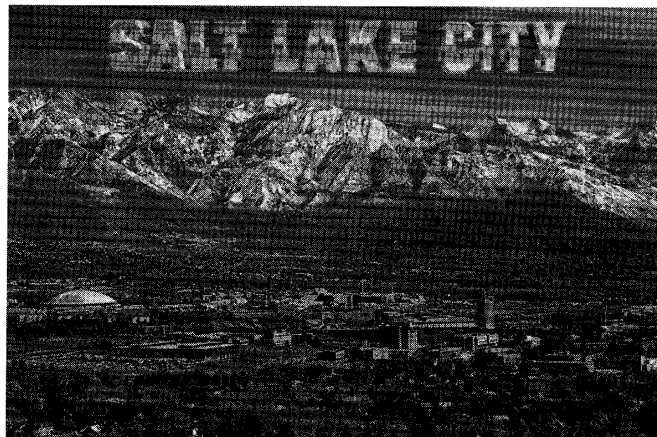
ビクトリア大学 (The University of Victoria=UVic) は1963年に創立され、2003年には40周年が執り行われた。その前身は1903年の Victoria College の設立にまで遡る。ビクトリア大学は、バンクーバー島の南端にあるブリティッシュコロンビア州の首都ビクトリアにある。ビクトリアは人口約33万人で、大学は海と森林に囲まれている。気候も温暖なので、リタイアした方が住む高級住宅地の雰囲気がある。日本で言うと、軽井沢のような雰囲気である。現在、12の Faculty と Division があり、40以上の学部がある。私が所属した政治学部 (Department of Political Science) は、Faculty of Social Science の傘下にある。ビクトリア大学の学生総数は、約18000人(大学院生を含む)で、このうち60%が女性である。教員は、専任教員730名を含み約2000名、職員は約1900名である。専任教員の約40%が女性教員である。

政治学部の専任教員数は16人である。政治学部のカリキュラム構造は、政治理論、比較政治、カナダ政治、国際政治それに現代の政治課題、という五つの分野に分かれている。1年次にはカナダの政治、2年次には政治理論、比較政治、国際政治のそれぞれ入門コースがある。そして、3年次と4年次において、五つのコースから自分のコースにあった科目を履修するようになっている。わが国同様、それらの科目の中に必修科目が指定されている。1年次に自国の政治を学習させるというのは、当たり前のようだが、極めて重要なことで、わが国の政治学教育では、多少おろそかにされている分野ではないだろうか。

<http://www.utah.edu>

<http://www.uvic.ca>

- (1) ユタ州の人口は約230万人（宮城県の人口に近い）、ユタ州最大の都市ソルトレイクシティの人口は、約18万人（文京区の人口に近い）である。90%以上が白人である。ソルトレイクシティの標高は、約1300メートルの高地である。夏は乾燥し、日差しは強烈である。日射病にならないためにも水分の補給は必須である。ソルトレイクシティは、1847年7月24日、ブリガム・ヤング率いるモルモン教の集団によって建設された。ユタ州がアメリカ合衆国に編入されたのは1896年で、45番目の州であった。
- (2) ブリガム・ヤングは、19世紀のモルモン教の指導者で、初代会長 Joseph Smith の死後、第2代の会長となる。モルモン教の正式名称は「末日聖徒イエス・キリスト教会」(Church of Jesus Christ of Latter-Day Saints=LDS)。モルモン教徒は、禁酒禁煙、コーヒー、コーラなどの刺激物は飲まない。人工中絶、同性愛、婚前交渉、麻薬、ギャンブルなどを禁じている。ユタ州人口の70%、ソルトレイクシティの人口の45%がモルモン教徒と言われている。かつては、ポリガミー（一夫多妻）であったが、1890年にモルモン教はポリガミーを放棄して、その後合衆国に編入が認められた。モルモンは、家族、家庭生活を重視する。モルモンの家庭は、一般的に子供の数が多い。信者は米国内では400万を超え、世界では900万を超える。
- (3) Deseret とは、Book of Mormon にある言葉で、ミツバチをさしている。モルモン教は19世紀半ばから宗教的迫害を受け、東部から転々と移住してきた。1847年に、モルモン教の2代目のリーダーであるブリガム・ヤングは、148人を引き連れて、ソルトレイクシティにたどり着いた。この時からソルトレイクシティとユタの建設が始まった。ヤングの1849年の構想では、現在のユタ州、アリゾナ州、ネバダ州およびカリフォルニア州、ニューメキシコ州、コロラド州、ワイオミング州の一部を含む広大な地域を The State of Deseret と呼んだ。ミツバチと蜂の巣は、今でもユタ州のシンボルとなり、州旗にも使われている。ユタ州とモルモン教の関係は、密接不可分である。



ユタ大学



ビクトリア大学